

〈いわき地方振興局長賞〉

「当たり前」をつくる税金

いわき市立中央台北中学校

2年 田部田 朱莉

私たちが普段お店で物を買うときには、必ず「消費税」がかかります。当たり前ですが100円の商品を買おうとすると会計では消費税が上乗せされ、110円払うことになります。

私は今までこの消費税を払う時に、なんだか損している気分になってしまい、嫌だなあと思っていました。そんな時、国語の課題の選択肢の一つにこの税についての作文があるのを知り、少し税について考え直してみようと思いました。

まず、税金についてもっと知ろうと思い、国税庁の公式サイトで税金の使われ方について調べることになりました。そこには、税金は医療、年金などの社会保障や、私達が通っている学校の教育費などにあてられていると書いてありました。そしてその教育費は、中学生1人あたり年間約106万7千円かけられているそうです。

私は今まで、税金が教育費に使われていることは、学校の授業などで知っていました。ですが、具体的にどのくらい使われているのかは知らなかったもので、とても驚きました。1年で約100万円、義務教育9年間だと約900万円になります。

もし税金がなかったら、その金額を払うのは難しく、今のように学校に行き、友達と一緒に勉強することは、できなかつたかもしれません。私はずっと、病院に行ったら無料で診察してもらい、学校に行ったら無料でいろんなことを学べるのが当たり前だと思っていました。しかし、多くの国民が一生懸命働いて、納めてくれている税金があるからこそ、その当たり前があるのだと気づきました。なので、これからはそのことに感謝しようと思います。そして、こんなに税金に助けられているのだから、消費税を払うときには、「ありがとう」とお返しをするつもりで、こころよく払いたいと思いました。私はまだ中学生で、税金を払うことより助けられることの方が多いです。ですが、これからもっと勉強をして税金や社会について知り、将来は一生懸命働いて税金を納めて、少しでも社会に貢献できるようになりたいです。

私の周りやSNSでは、以前の私のように税金に不満をもつ人を多くみます。しかし、税金による負担などのマイナスな面だけでなく、払った税金が他の人を助けている、自分も税金に助けられているというプラスの面に注目し、国民全員が税金の役割や使われ方を理解することで不満をもつ人が減ると考えます。

だから、メディアや学校などで正しい税金の知識を国民全員が身につけ、税金への理解が深まれば、よりよい社会になるのではないかと思います。